

収穫した木材を自社工場で加工 材質が優れた木材を県産材の魅力を発信



県内の森林組合の中では唯一、自前の加工施設を備える。
加工工程は、まずチップにするか製材にするかで大きく分かれる。チップには低質木が用いられ、専用の機械で粉砕してオガコを製造。その中でも粒子の粗いものは畜産敷料に、細かいものはキノコなどの菌床栽培に主に使われる。

一方で製材する木材は、天然乾燥させてから加工して、機械乾燥で含水率を8〜10%に抑えた後、屋内で1カ月弱養生してから出荷する。製材の用途は、かつては土木資材が中心だったが、現在は家具材、化粧材などにシフトチェンジ。2017年にスタートした銘木にも注目が集まる。

「県産材は曲がりが多くて建築の構造材には不向きでも、特にリュウキュウマツなどは木目の美しさに定評がある。材質の優れた木材を、相応の価値で販売するチャンネルを広げ、県産材の魅力を発信していきたい。」

組合職員の比嘉進さんの目は、常に時代の一歩先を見据えている。



国頭村森林組合
住/国頭村字与那1258
☎0980-41-5421



沖縄特有の樹種を活かした商材で 新たな市場へ向けた業務拡大を図る



創業7年目になるキンモクは現在5名のスタッフが製材業務に従事している。北部の森林業者より購入した木材を品質によって建築資材と土木資材に選別、用途に合わせた大きさや形に加工して販売を行っている。性質により異なるが木材の自然乾燥は平均3〜5年。リュウキュウマツなどは乾燥機に10日間かければ、2〜3ヶ月の自然乾燥で製材できる。今年4月には新しい倉庫を工場の近くに増設し、大量の木材の保管や乾燥などに大きく貢献している。

沖縄に広く分布する広葉樹は構造が複雑なところに魅力があるという。「入り組んだ木目などバラエティに富んだ品質こそがおもしろい」と代表取締役の金城さんは熱く語る。そこに着手して商品化した「木製タイル」はイタジイやクスノキ、センダンといった複数の木材をミックスさせた建築資材で、沖縄特有の樹種の多様性を感じることができる。近年では公共事業の減少に伴い、個人工房などにも視野を広げた販売を展開。さらに、観光市場にも目を向けた新たな商材を立案中だ。



企業組合キンモク
住/金武町金武10392-4
☎098-968-6767

店舗内装・
インテリア製作
手掛けました



Jungle Studioが最初に内装を手掛けた居酒屋。こぢんまりとした雰囲気ながら県産木材の温もりに癒される空間だ。テーブルの天板にリュウキュウマツやクスノキ、センダン、カウンター席の椅子と壁にリュウキュウマツ、天板にイジュが施されている。



JIROCHO 酒一家
住/那覇市牧志2-4-7
☎ 098-880-0400
営/17:00~25:00



- 1.「キッチンペーパースタンド」
リュウキュウマツ・アカギ・クスノキ
- 2.「まな板」
リュウキュウマツ
- 3.「コーヒードリップアイロンスタンド」
リュウキュウマツ
- 4.「ハイスツール」
リュウキュウマツ
- 5.「モザイクコースター」
リュウキュウマツ・アカギ・クスノキ・センダン・イジュ
- 6.「アイロンズツール」
リュウキュウマツ



左から「Jungle Studio」の相羽さんと「NO NAME IRON WORKS」の長屋さん

木材と鉄をコラボさせた量産型の商品を沖縄から発信
リュウキュウマツ、アカギ、センダンなど沖縄産の木材と鉄を融合させたおよそ86種類の家具や雑貨を取り扱う量産型の製造メーカー。鉄は鉄家具のオーダーメイドを手掛ける「NO NAME IRON WORKS」と共同で製作をしている。沖縄の木のしなやかさと鉄の力強さとが調和した作品は年に2回東京で開催されるギフトショーの出演をきっかけにバイヤーの目に留まり、全国的に広く知れ渡るようになった。今では月に1000個、多い時には4000個を超す注文数が殺到する。使い手の気持ちに寄り添った作品作りの思いが、その結果のあらわれであろう。今後は新しい木材や鉄以外のマッシュングも構想中だ。



沖縄の木を
生かす職人たち
独自の技術や発想で、
沖縄の木と真剣に向かい合う
木作家&工芸士



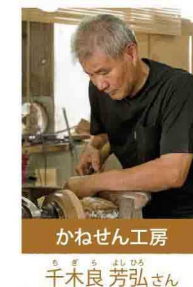
1. 島変木「アカギの椅子」
アカギ
2. 島変木「ロックングラズ」
アカギ・クスノキ
3. 島変木「くまん椅子」
アカギ・リュウキュウマツ
4. かねせん工房「HADOスピーカー」
クスノキ
5. かねせん工房「万年筆」
上/イロハ・下/モミ・コクラン・フキ 中/コクラン 下/センダン
6. かねせん工房「平皿」
センダン
7. かねせん工房「一輪挿し」
リュウキュウマツ
8. 香りと場研究所「森旅・天然木のアロマシート」
9. 香りと場研究所「森旅・深呼吸のためのさわやかミスト」
10. 香りと場研究所「森旅・リュウキュウマツブレンド」
11. 香りと場研究所「オリジナルブレンドセット」



香りと場研究所
園田 優子さん

リュウキュウマツの未利用材(枝葉)から抽出した精油を元に、柑橘類やハーブなど他の植物の香りとブレンドした商品の開発や販売を行っている。企業のオフィス内にアロマ製品を導入、木の香りなどによる空間環境の改善と業務の効率支援などをサポート。

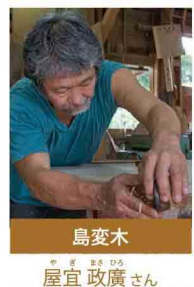
住/北中城村瑞豊597 No.24
☎ 098-932-3839
https://www.scent-place.jp



かねせん工房
千木良 芳弘さん

クスノキやセンダン、リュウキュウマツなどの樹種を中心に器やボールペン、スピーカーなどロクロを使った木工技術「挽き物」専門の工芸士。挽き物の技術で制作されたスピーカー(HADO)が有名。経済産業大臣認定、琉球漆器木地部門の伝統工芸士。

住/沖縄市宮里2-19-7
☎ 098-938-7040



島変木
屋宜 政廣さん

沖縄の木作家としてバイオフィア的な存在。全体的に丸みのある形状が特徴で、主にアカギを使用した流線家具は深い温かみと安堵感を与えてくれる。スペースとした気持ちの良い感触や座った時の心地よさは、自然と穏やかな雰囲気に包み込まれる。

住/沖縄市知花5-24-8
☎ 098-989-3103

県産木製品が一堂に集う!
お木なわ
コラム
沖縄ウッドフェア

沖縄県産木を生かした製品や工芸品が一堂に集う「沖縄ウッドフェア」。県内の多様な木材の木芸製品の普及と豊かで安らぎのある生活環境づくりに貢献することを目的に、毎年開催されている。今年で22回目を数え、回を重ねるごとに人気が高まり今では沖縄最大級の木工作品、展示販売イベントとしてすっかり定着している。60工房余りの木工製品の展示販売や木工体験教室、ワークショップをはじめ、チャリティーオークションなど小さなお子様からお年寄りまで楽しめるイベントなので気軽に足を運んでみよう。

開催日時/平成29年11月3日(金)~5日(日)
10:00~19:00 ※最終日は18:00まで
会場/沖縄空手会館(豊見城市豊見城854-1)



モクモク
mokumoku



Banana Furniture Store

神田 優枝さん

家具はあくまでも脇役的な存在というスタイルをモットーに際立たせるのではなく空間に溶け込むような家具作りを心がけている。



テツモク

豊田 修さん

毎日の暮らしが少し豊かで楽しい気分になるような家具作りを目指している。個性的なデザインやカラーで飾られた作品が多い。



木工房もり〜む

盛根 理恵さん

浜比嘉島で琉球松を使った、おもちゃなどの小物を中心に製作をしている。手に取る人の思いが刺まれるような作品作りを心がける。



1



2



3



4



5



6



7



8

1. Banana Furniture Store「木花(もくぼな)」

リュウキュウマツ・クスノキ・イタジ

2. テツモク「The moon clock」

アカギ・ハゼ・ウラジロガシ

3. WOODYはる房「橋木組込み時計」

クスノキ

4. 木工房もり〜む「うるっくる」

リュウキュウマツ

5. 木工房ためKAN「魚釣り」

リュウキュウマツ・アカギ・イタジ・クスノキ・その他

6. 木工房ためKAN「ブックマッチテーブル」

アカギ

7. WOODWORKS「ダイニングテーブル」

クスノキ

8. 木工房 木妖精「産卓」

リュウキュウマツ



1



2



3



4



6



5

1. 工房地球のかけら「学習机」

リュウキュウマツ・その他

2. 工房地球のかけら「く積み木>森のかたち」

リュウキュウマツ・アカギ・センダン・クスノキ

3. 工房地球のかけら「サイドテーブル」

リュウキュウマツ・アカギ・クスノキ・その他

4. 工房地球のかけら「やじるべ〜」

リュウキュウマツ・アカギ・クワ

5. 木工房ひかり「シーサー×12面柜」

アカギ・クスノキ・ハンノキ・テリハダク・リュウキュウマツ・

イシユ・イスノキ・センダン・アカギ・タブ・ガジュマル・イヌマキ

6. 木工房ひかり「琉球松のランプ」

リュウキュウマツ

らっきー
木の工房 楽樹



工房地球のかけら

古我知 毅さん

木の工房 楽樹の代表。建築やオーダーメイド家具を中心に手掛けている。木育にも積極的な取り組みを行っている情熱溢れる作家だ。



木工房ひかり

岩田 望美さん

リュウキュウマツのランプや木のおもちゃなどの作品に定評がある。公募展などで数々の賞を受賞。アイデア満載の女流木工作家。

ウッドワークス
WOODWORKS

宮野 信夫さん

気持ちのおもむくままに作る作風が特徴。じっくりと時間をかけたり、ときにはあっと言う間に完成したりと、表情豊かな作品が多い。

木工房 木妖精

外間 則道さん

オーダーメイドの家具を中心とした作品を多く手掛けている。世界にひとつしかないあなただけの物に思いを込めて。



木工房ためKAN

為村 千代美さん・石川 寛さん

「ここにこの位のこんな物が欲しい」の声に応え、おもちゃから家具まで幅広くニーズにあった物作りを行っている。アフターケアもしっかりしてくれるので任せて安心。



WODDYはる房

屋良 朝治さん

「家具に託したメッセージ、色や形に封じ込め、あなたに贈る心地よさ」をキャッチフレーズにシンプルかつ機能的な作品作りを目指す。



住/宜野湾市大山5-17-5
☎ 098-897-5755
営/11:00~19:00
休/水曜日



県内7つの工房が運営する
木家具と木工クラフトの店

那覇から58号線を伊佐交差点向け、大山小学校手前にある木工ショップ。沖縄県内で活動をしている7つの工房によって運営されている。店内に足を踏み入れると木の香りで胸がいっぱいになり、なんとも言えない安堵感に包まれる。テーブルや椅子、小物、雑貨といった数多くの木工作品が展示、販売されている。7つの工房の作品が一堂に集まるだけに、個性豊かな作品は見ているだけでも心が弾む。店番は各作家が持ち回りで担当。足しげく通いながら気になる作家との会話も楽しいだろう。

住/八重瀬町世名城1569-2
☎ 098-998-0078
営/10:00~17:00
休/水・木曜日



木育活動としての役割も担う
4作家が営む工房&ギャラリー
4人の作家が看板を掲げて運営を行っている工房&ギャラリー。工房の庭先にはツリーハウスや木材を組み合わせた遊具が設置されていて、近所の子どもの遊び場として親しまれている。毎年GW期間中には森の学校を企画、廃材を使った工作や日替わりのワークショップなどを開催。遠方からも多くの家族連れが訪れる人気のイベントで、木育活動の拠点としての役割にもなっている。工房内のギャラリーでは4人の作家の作品を展示、販売している。今回は2人の作家を取り上げて紹介する。

道の駅ゆいゆい国頭内にあるレストラン。豊富な定食メニューが自慢で、中でも人気のイノブタ肉そばやイノブタ丼に木の器が使用されている。クスノキやセダン、エゴノキ、リュウキュウマツなどで作られた器でいただく料理は格別な味わいが楽しめる。お客さんからも手に持った感触が評判で、中には譲って欲しいという声もよく聞かれるそうだ。

住/国頭村字奥間1605
☎0980-41-5555
営/11:00~16:00
休/年末年始
http://www.yuiyui-k.jp/



木目が美しいリュウキュウマツのどんぶりに入ったイノブタ肉そば800円は人気No.1メニュー。

温もり溢れる木の器でいただく食事と触感でWの美味しさ！

レストランくいな

KUNIGAMI
03

暮らしに木を 取り込む 国頭村



やんばるの自然から恩恵を受ける 国頭村ならではの4つの取り組み。



手前中央が時松先生。世界遺産登録に向けて、財産をどう守りながら生活するかを考えなければならぬと話す。



KUNIGAMI
01

森林資源を活用した木工職人の育成と地域産業の振興を図る やんばるクラフト



多くの樹種が生育する国頭村では、貴重な森林資源の付加価値を高めて活用する取り組みとして、村内に移住しながら木工職人を目指す人材育成を中心とした新たな地域産業としての振興を図っている。講師に大分県湯布院町にデザイン研究所を構える木工芸デザイナーの時松辰夫先生を招き熱のこもった指導の下、現在3名の木工職人の卵たちが技術の向上に努めている。

KUNIGAMI
02

木育を広める体験型の施設で木の温もりに触れながら遊ぶ やんばる森のおもちゃ美術館



国頭村の木育を普及する中心施設。沖縄県産木材で製作された、個性的な木のおもちゃがたくさん！



ヘントナラウンジ
HENTONA LOUNGE

KUNIGAMI
04

木の温もりを肌で感じながらゆったりと寛げる多目的空間

カウンターやツール、ワークデスクなどにリュウキュウマツが取り入れられた、カフェ利用もできるコワーキングスペース。本来の沖縄の姿が残るこの場所に魅力を感じてオープンさせたオーナーの久保さんの思いがいっぱいにつまった多目的スペースだ。2・3階には国頭村への移住を検討する人が、トライアルで使用できる宿泊施設が併設されている。

住/国頭村字辺土名119-6
☎090-3413-1196
営/平日 9:30~19:00
土・日曜日、祝日 10:30~19:00
※コワーキングスペースは最終チェックイン18:00、最長20:00までご利用可能
休/年末年始
http://hentona-lounge.yumbaru.jp/



店内の一角では、「やんばるクラフト」や「あしび三線」など、地元で活躍する作家達の作品を展示、販売されている。



三角屋根の樹上ハウスやバンガロー、キャンプ場などが整備された国頭村森林公園内にある施設。館内の壁には沖縄の木工職人が製作したおもちゃが数多く並んでいる。中でも約5000個の木の卵が入ったプールは子どもたちに大人気。利用客の90%以上が村外で占めており、南部方面から訪れる家族連れなどで週末は賑わっている。



住/国頭村字辺土名1094-1
☎0980-50-1022
営/10:00~16:00(入館は15:30まで)
料/子ども200円(3歳~小学生まで)・大人400円(中学生以上)
団体割引10名以上1名につき100円引き
休/火曜日
http://www.kunigami-forest-park.org/

自生する木。加工される木。
どの「木」も形は変われど
共存する姿は変わらず
私たちと共に生き続ける

三原聖。ペテロ聖パウロ教会

木材に覆われた美しい祭壇と
自然の香りに包み込まれた教会

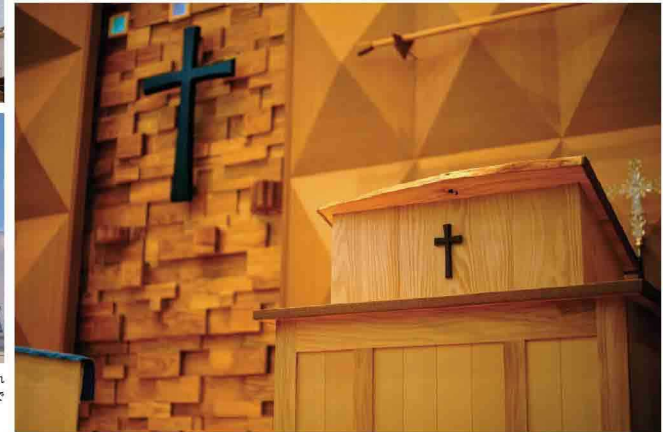
老朽化に伴い建て替える際に、以前この場所に立っていたセンダンを十字架に再利用。その背景にも、木の工房楽樹の古我知穀さんと沖縄ステンドグラスの金城若菜さんがコラボした美しいセンダンの壁を見ることが出来る。祭壇の左右に配置された講壇にはリュウキュウマツが使用されている。

(設計は建築アトリエ Treppen の照屋寛公氏)

住/那覇市三原2-23-1
☎ 098-832-3242



教会の鐘には「1917」の数字が刻印されており、100年前に製造された古い鐘であることが判明し話題にもなっている。



沖縄県 県民の森

広大な自然林の中で学習や
レジャー体験が楽しめる施設

沖縄県民が森林レクリエーションや体験学習を通して、森の仕組みと役割について理解を深めていくことを目的に開設された。広大な敷地内には遊歩道を利用した山登りやキャンプ場、パークゴルフ場、森林学習展示館などの施設が用意されている。園内には250種以上ともいわれるイタジイを主とした植物や季節に合わせて開花する木なども多く見ることが出来る。

住/恩納村安富祖208
☎ 098-967-8092
http://kenminnomori.okinawa



森林学習展示館では沖縄の木の種類の展示や積み木コーナー、森の生き物を解説した掲示板などが設置されている。

「木育」は誰にでもできる取り組み

私たちの生活には、家や家具、道具、紙など木から生まれたものが、たくさん使われている。しかし、その材料となっている木や森のことを想像できる人はどれだけいるのだろうか。「木育」は平成16年、北海道と道民による「木育推進プロジェクトチーム」において検討された言葉。平成18年度9月に閣議決定された「森林・林業基本計画」においては、「市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ「木育」とも言うべき木材利用に関する教育活動を促進する」としている。東京おもちゃ美術館を運営する認定NPO法人「芸術と遊び創造協会」がシンブルにまとめた「木育」の目指す目的を紹介しよう。

- (か) 環境を守る 「木育」
- (き) 木の文化を伝える 「木育」
- (く) 暮らしの木を取り入れる 「木育」
- (け) 経済を活性化させる 「木育」
- (こ) 子どもの心を豊かにする 「木育」

(か) 「木育」は単に木が好きになって、暮らしの中に取り入れればよいというものではなく、その木材が森林環境を守りながら、伐採され加工されていることまで思いを馳せることが大切。

(き) 日本は世界最古の木造建築物である法隆寺に代表されるように、世界屈指の木の加工技術誇る国でもあり、木で何かをつくることを通して、木と向き合い木の文化を伝えるべき。

えてきた。

(く) 一方で、暮らしの中からどんな木の文化がなくなっていくことも事実。もともと木もつ心地よさを五感で感じ、暮らしに木を取り入れていくことから、世界の冠たる森林大国日本の中で木の自給自足をしていくことが求められる。

(け) 日本の林業や木材加工業は高度経済成長期を経て、途をたどった。私たちが住んでいる国の木をもっと使うことで、森林産業を元気にさせ、山村・里山を中心とした経済を活性化させることができるはずだ。

(こ) 今、再び暮らしに木を取り入れるべく、日本各地では、子どもが育つ身近な環境に木のおもちゃなどを取り入れ、五感に働きかける心の発達を促し、子どもの心を豊かにする取り組みが始まっている。

国頭村では10年ほど前から、木材の需要を取り戻すことを目的に村内全小学校の机と椅子を国頭産材に切り替えた。机と椅子は小学校の入学時に親子で組み立て、6年間使用し卒業時にその子ども達にプレゼントする活動を継続している。他にも下記のコラムに掲載されている県主催の「山の日まつり」や「木育出前講座」をはじめ、国頭村森林組合主催のQWYイベント「森林公園木育フェア」、木工房が自主的に主催するイベントなどが実施されている。

「木育」は誰でも、いつでも、どこでもできる取り組み。森や木と向かいあった時に、少しだけ五感を集中させてみよう。木を使う事と環境を守る事が、つながっている事にきっと気付けるはず。

〈出典・参考資料〉木育ラボ <http://mokuikubabo.info/> 林野庁 『「木育」の推進について～木材の利用促進に向けた取組み～』 <http://www.rinya.maff.go.jp/> 産山委子・西川栄明(著) 『木育の本 木とふれあい、木に学び、木と生きる。』北海道新聞社

沖縄県産リュウキュウマツを使った木のしおり

お木なわ コラム 工作体験で山に親しんだ「山の日まつり」山の日イベント

8月11日の山の日に関連し、恩納村の県民の森で11日と12日に「山の日まつり」が開催された。12日に行われた木工クラフト体験ではプロの木工作家の指導のもと、子ども達はカンノキのコマ作りやギンネムのボールペン作りなど、沖縄県産木材を使用したさまざまな工作体験にチャレンジ！木の魅力に直接触れることができた参加者にとって、山を身近に感じられるひとときを過ごしたようだ。



品名：木の紙 やんばるの森 ヤンリウクイナ
素材：沖縄県産琉球松（表面素材）、上質紙（裏面素材）
用途：装飾品、しおり、モビールなど

△使用上の注意

天然木を使用しているため、下記の点にご注意ください。
・商品から木の匂い/樹脂が出ている可能性があります。指などならぬように注意してください。
・同じ木目の物はございません。
・色味の経年変化がございます。(日が経つにつれて色味が濃く変化します。)
食べ物ではございません。口の中には絶対に入れないでください。窒息の危険があります。誤飲やけがなど思わぬ事故の恐れがありますので、3歳未満のお子様には絶対に与えないでください。保護者のもとで遊ばせてください。紙の角や縁でケガをしないようご注意ください。

株式会社クレコ・ラボ
お問い合わせ先 〒105-0014 東京都港区芝2-5-10-1102 TEL. 03-6453-6916(平日10時～17時)